

# 「思いやりの心で生きる」

校長 石田 雄介

今年も、58年前に新潟地震が起きた次の日に、地震想定避難訓練を行いました。一人一人が自分の命を守り、安全に避難できることをねらいました。

私は、避難後の振り返りで、体を私の方に向け、目を合わせて真剣に話を聴いてくれる子どもたち。私がまず伝えたことは、万一の際には、「まず、命を守る行動をとること」「次に、**おはしも**で避難すること」の2つです。次に、地震の際に避難所で生活せねばならなくなることも想定し、次の話をしました。

地震や災害で避難した時は、互いに**思いやりの気持ち**を持って過ごしていくことがなにより大切となります。家に戻れないため、体育館に避難してしばらく生活することになった場合、さわがない、お年寄りや小さい子を助けたり面倒みたりする、励ましの声をかけ合う…そんな気持ちが必要になります。

相手を思いやる気持ちは、急に持てるものではありません。普段の生活の中で、「**相手のことを思いやって行動すること**」が大切なのです。

今月は、「いじめ見逃しゼロ強調月間」でもあります。いじめは絶対に見逃さない、許さない。みんなで思いやりの心を忘れずに過ごそう。そんな気持ちを新たにすする月です。いじめをする人は、思いやりが足りないのでしょうか。よくこういう言い訳をします。「ふざけてやりました」「ちょっとからかっただけです」

…自分が面白ければいいという風に聞こえます。ふざけてやったと言いますが、それを「された人」はどんなに嫌な気持ちになるのでしょうか。自分がされたら、どんなに辛いかわからないのでしょうか。「ふざける」と「楽しい」は、全然違うのです。自分がされて嫌なことは絶対にしないのです。

南っ子の皆さんは、どうか相手を嫌な気持ちにさせることでなく、相手がうれしくなる言葉かけや、優しい行動をしてください。「**優しくて明るい人**」って、素敵でしょう。あなたも必ずそんな人になれます。素敵なあなたを目指してください。

みんなが、「思いやりのない言葉や態度、行動」を見逃さず、許さないこと。

そして、みんなが毎日笑顔で過ごせるように、これからも思いやりのある行動をしていきましょう。

本校で目指す「**未来を生きる力**」の1つに、「**対話し協働する力**」を掲げています。育てたい力は、【互いに相手のことを分かり合おうとコミュニケーションを取り、思いやりの気持ちをもって力を合わせていける力】です。

人とのふれあいや対話・交流活動が制限されてきたここ2年間で、失われたものは大きいと思えます。子どもたちが本来持つ優しさや交流する楽しさを、徐々に取り戻していくことが学校の課題の一つです。南っ子の心を耕し、「**大切な力**」を付けるべく、私たちは日々子どもたちと向き合っています。